

自分の声を信じて

長久手市立長久手中学校

三年 高橋 奈那

私は中学二年生の一年間、ほとんど学校に通うことができませんでした。四月にクラスが変わり、新しい友達を作ろうと楽しみにしていた時に、病気のため入院したことがきっかけでした。

約一ヶ月間療養した後、私はすぐに学校へ登校できると思っていました。が、いざ登校しようとするときさまざまな不安が襲ってききました。何とか勇気を出して登校しても、入院したことで勉強が遅れているので、先生に当てられても答えられなくて恥ずかしいという気持ちや、クラスメイトが私のことをどう思っているのか、どのグループに入れてもらえるかなど、学校にいる間ずっと周りの目を気にして過ごしていました。毎日起きると不安で苦しくなり、そして登校できない日が増えていきました。

「そんなの気にしなくていいよ」と言われ

でも、どうしても気になつてしまふ自分がいて、また「学校に来てね」「明日来れそう？」という言葉も、私にとってはすごくストレスに感じました。学校に行かなければと思う自分と行きたくないと思う自分。この複雑な感情をうまく伝えられず、一人で溜め込んで家族にぶつけていました。そのような自分が嫌で毎日辛かったのですが、それでも優しく見守ってくれている家族にはとても感謝しています。

そんな日々の中、唯一学校に行くことができたのは部活動でした。良い仲間、良い先生に出会い、短い練習の中でたくさん話し、みんなと笑いあえる時間は、幸せであり大切なものとなつていきます。試合では戦略を考え、勝つたときの喜びや負けた時の悔しさ、仲間を応援することなど、チームワークを高めていくことの素晴らしさを学ぶことができる部活動が、今の私にとって一番居心地の良い場所になつていきます。

ところで皆さんは、アンジェラ・アキさんの「手紙〜拝啓十五の君へ〜」という歌をご

存知ですか？この歌は苦しんでいる私の心を
優しく救ってくれました。

歌詞の中に「ひとつしかないこの胸が何度
もばらばらに割れて」とあるのですが、この
表現が今の私に響き、共感し何度も泣きまし
た。そして「今負けないで泣かないで、消え
てしまいそうなきは、自分の声を信じ歩け
ばいいの」という言葉にも励まされました。
日々生きるのが辛かった時、誰も信じられな
くなりどうしたらよいか分からず、逃げ出
したいと思ったことが何度もありました。が、
その時は自分自身に問い続け、どうしたいの
か、そのためには何をしたらよいかという
意思をしっかりと持って、前を向いて「自分の
声を信じて歩く」ことが大事だと強く感じま
した。

そして「人生のすべてに意味があるから、
恐れずにあなたの夢を育てて」という歌詞に
も勇気をもらいました。中学二年生の私は、
みんなと一緒に授業を受けられず、体育祭や
文化祭などの行事にも参加できずに終わって
しまいました。家で特に何もせず過ごした時

間がすごく無駄な時間だったと後悔し、将来が見えずに絶望したことが何度もありました。が、「人生のすべてに意味がある」という言葉から、学校に通えなかったその時間もきつと意味があったのだと思い、自分の気持ちを切り替えて前を向いて進もうと決めました。

中学三年生の新しい生活が始まりました。今の私の目標は、部活動を頑張ること、修学旅行を楽しむこと、体育祭や文化祭をみんなと一緒に盛り上がること、そして勉強の遅れを取り戻して高校受験に合格することです。思うようにならなくて、悩むことや落ち込むこともたくさんあると思いますが、家族や先生、友達に相談しながら考えて、そして自分の声を信じて、自分が決めた道を突き進んでいこうと思います。そしてどの道を選んだとしても笑顔で前向きに生きていきたいです。